

# コザ男子 浦添女子 制覇

県高校春季  
ハンドボール

を決めた。全国選抜出場を  
控える男子興南と女子那覇  
西は、今大会を欠場した。  
【男子】  
▽3位決定戦  
コザ 31(15|16) 15 24 那覇西

▽3位決定戦  
コザ 27 22 浦添商  
▽決勝  
浦添 30(17|13) 10 19 陽明

ハンドボールの第3回K  
BC学園杯争奪第37回県高  
校春季選手権大会最終日は  
17日、八重瀬町東風平運動  
公園体育館で行われ、男子  
決勝はコザが31-24で那覇  
西に、女子決勝は浦添が30  
-19で陽明に勝利し、優勝



女子決勝 浦添-陽明 激しい守備をかいくぐりシュートを決める、浦添の右サイド宮城美希=17日、八重瀬町の東風平運動公園体育館（山城博明撮影）

## 得意の形、攻撃幅広く 浦添女子

女子浦添は、GK大城美海のセーブから速攻へ切り替える得意のスタイルが機能的な3カ月前の新報旗で、陽明を突き放した。

中でも、1年生メンバーの存在感が光った。セットオフエンスでは、パスをつないで右サイド宮城美希をフリーにし、気持ちよくシュートを打たせた。「美希ならどこからでも打てる。信頼してパスを出した」と主将の奥平有里可。宮城は「自分が得点で引く張る思いだった」と話した。

守備では、喜舎場淳一監督の指示を受けて、しっかりと前から当たるところで、陽明のフェイントやポストプレーを封じた。大城は「守備から速攻にうまくつなげられた」と話す一方で「当たり負けして、押し込まれる場面もあった」と守

備面での課題を口にしている。レギュラー6人中4人が1年生。宮城の8得点をはじめ、右45度安里ころ、翁長鈴がそれぞれ6得点を挙げるなど、中学時代のJOC全国選抜のメンバーで27得点を挙げた。主力としてチームをけん引する安里は「那覇西が出ていない中で優勝は完璧じゃない。県総体で戦つてもう一度優勝できたらいい」と力を込めた。  
(新垣 梨沙)

## 貪欲にプレー 大量リードに 男子コザ

○:常にパスカットを狙う攻撃的な守備を敷き、速攻で得点したコザ。序盤から先行し、後半には一時2桁リードを奪った。神里太監督は「2月の九州大会は、試合の入りの悪さが敗戦につながった。その反省を生かしてくれた」と評価した。



男子決勝 コザ-陽明 チーム最多の8得点を奪ったコザの平良圭

味方のシュートのこぼれ球を押し込むなど貪欲に得点を狙う姿勢が、大量リードをもたらした。退場が続いた後半終盤は、那覇西に連続得点を許したが、ここでも1年平良圭や我如古龍生らがシュートをねじ込み、流れを渡さなかった。チームは、小学校低学年からコザクラブジュニアで活動してきた1年生が主体。好セーブを連発したGK陣に加え、レギュラーのコートプレーヤー4人が、31点中23点を挙げた。最多8得点の平良は「ずっと一緒に仲間。息もぴったり」と結束力を誇る。主将玉築悠は「次は県総体で興南を倒したい。試合で隙を出さないことが一番の課題」と夏に向け気を引き締めた。